

## 2020年3月度(第79期)中間仮決算ダイジェスト

## ■売上高

20,639百万円

売上高は、前期より増加し20,639百万円(対前年同期比106.7%)となった。要因として、手持工事の出来高進捗率が影響した為である。繰越工事高は61,700百万円(対前年同期比97.6%)となった。

## ■営業利益

1,854百万円

## ■経常利益

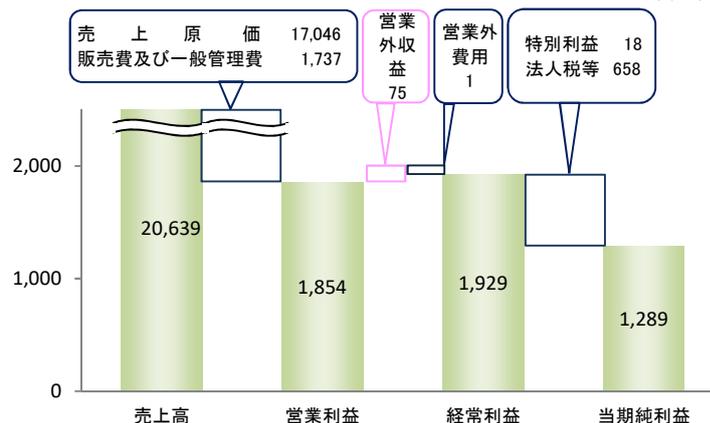
1,929百万円

## ■当期純利益

1,289百万円

損益計算書の概要

(単位:百万円)



利益は、売上総利益が増加したが、事務所経費増加の影響により、営業利益で1,854百万円(対前年同期比97.4%)、経常利益は有価証券配当金等で1,929百万円(同97.6%)、当期純利益で1,289百万円(同101.8%)となった。

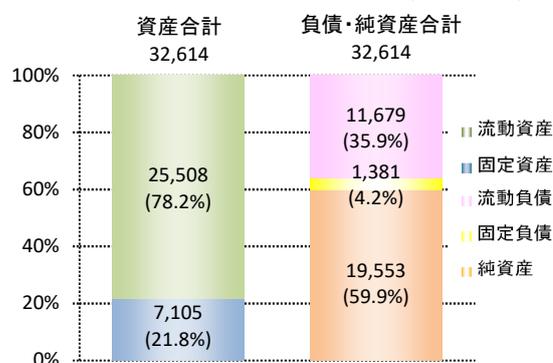
## ■自己資本比率

59.9%

自己資本比率は59.9%(前年末比2.4%増)となった。総資産の残高は32,614百万円(前年末比212百万円増)となった。主因として、現金預金が増加した為である。負債の残高は13,060百万円(前年末比695百万円減)となった。主因として、仕入債務が減少した為である。純資産は19,553百万円と前年末と比べ908百万円増加している。

貸借対照表の概要

(単位:百万円)



## ■キャッシュフロー

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、主に仕入債務の減少によって資金が減少となった。  
「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に固定資産の売却により資金が増加となった。  
「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に短期借入実行により資金が増加となった。  
結果、前期末より376百万円資金が増加となった。

現金及び同等物 第78期 期末残高	営業活動CF	投資活動CF	財務活動CF	現金及び同等物 第79期 3月期残高
10,162	▲ 343	19	700	10,538

(単位:百万円)

## ■通期予測

第79期の本決算は、手持工事量の最適化を図ったことで、前期末と比べ売上高は915百万円減少の41,677百万円となり、利益は手持工事の利益率低下に伴い、営業利益は2,021百万円、経常利益は2,167百万円、当期純利益は1,408百万円となる見込です。

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
41,677	2,021	2,167	1,408

(単位:百万円)